

いきごみ通信

楽しい堆肥づくり 秋期講習会終了

グリーンパレス (9/21, 10/19, 11/16)

タワーホール船堀 (9/25, 10/23, 11/22)

において各(全3回)講習会を開催しました

講習会を始めて9年目となる今秋期講習会で参加者が1300名を超えました。

これからも多くの仲間と共に、生ごみからできた堆肥で、元気な花や野菜作りを楽しみましょう。



タワーホール船堀 実演風景

今年度は「プランターに腐葉土を使った堆肥作り」を中心に講習会を開催してきましたが、容器はプランターでなくても身近にあるもの何でも良いという説明をしてきました。その結果いろいろなアイデアが生まれ、ごみ箱・衣装箱・ゴミ袋を敷いた段ボール箱・保冷箱・発泡箱 etc...

いろいろな容器を使った堆肥作りがあり、皆さまの工夫が感じられました。

また参加者の中には長年、堆肥作りを続けてきたというベテランや、生ごみを分解する土の中の微生物の働きを紙芝居にしまったという方など、大変熱心な参加者で熱気あふれる講習会となりました。



挨拶 えどがわエコセンター理事長



熱演！ 菌ちゃんの紙芝居

気温が低い季節の工夫



冬季は気温が低く、微生物の働きが悪くて発酵がうまく進まないのです、こんな工夫をするといいですよ。

- ◆ 生ごみをより細かく切る。
- ◆ ジッパー袋などで、一次発酵をさせてから投入する。
- ◆ むかやぼかしを少し多めにまぶす。
- ◆ プランターを日当たりの良い所に置くとか、プランターの周りを段ボールや緩衝材を巻いて保温する。
- ◆ プランターに透明のポリ袋をかけて日向に置く。

※プランターの中が発酵熱で水分過多にならないように、土の表面に新聞紙をかぶせて吸収させてください。

「生ごみを捨てるなんてもったいない！」自分流の堆肥づくりを見つけることが長続きのコツです。疲れたときは休みながら無理をしないで長く続けていただきたいものです。来春には熟成堆肥で“花や野菜”を植付けできることを楽しみに・・・

冬期講習会の開催日「プランターに土を使った堆肥作り」

日時：平成25年3月1日(金) PM 2:00～ 4:00 場所：タワーホール船堀 産業振興センター

お友達やご近所の方をお誘い下さい。参加ご希望の方はメール・ファックス・電話でご連絡いただければ、新しいテキストやぼかし等を準備してお待ちしています。電話は不在の場合、名前と電話番号を残してください。

区民祭りの参加



10月7日(日)、朝からの強い雨の中、区民まつりは予定通り開催されました。

8:30に集合してテーブル、パネル、花や野菜のポット苗などの準備をしながら空を見上げていましたが、雨がやむ気配はありませんでした。ようやく青空が見えたのは、区民祭りも終盤の

午後2時ころです。

そんな中でも大勢の来場者があり、講習会チラシとカスミノウの種を配布して開催中の秋期講習会への参加を呼びかけました。

参加いただいた皆様には会員提供のゴーヤ(45本)、花や野菜のポット苗、球根などを差し上げました。クラブは毎年同じ場所にブースを出していますので、これまでの講習会に参加された方が立ち寄り、「堆肥作り続けています。」「できた堆肥を使っています」「ぼかしはありませんか」などと声をかけてくださいました。雨で肌寒い区民まつりでしたが、堆肥作りの楽しさを伝えた一日でした。(H.H)



3回の実演をしました



提供のゴーヤ



穂高荘への親睦旅行

クラブ発足10年目を迎えたお祝いと会員の親睦を兼ねた旅行が10月13日(土)、14日(日)の1泊で行われた。クラブでの宿泊旅行は初めてとのことである。参加者は12名と残念ながら少し少なめでした。一之江の集合場所では、欠席予定の中川さんが突然バスに乗り込んできた。何事かと思ったら、見送りと差し入れを持ってきてくれた。このハプニングにバスの中は大いに盛り上がった。総合文化センターでは、体調が心配された荒川さんが思ったより元気そうに乗ってきた。今回の旅行の嬉しかった事の一つである。

旧軽井沢では昼食と散策である。パン屋さんが沢山あり、普段あまり食べない菓子パンを食べてみたが美味しかった。鬼押し出しで観光後、穂高荘に向かったが、到着は6時過ぎと真っ暗である。温泉にも入らず着替えだけをして、早速、夕食というか待望の宴会である。残念ながら参加できなかった佐藤代表の差し入れの生ビールで乾杯。皆さん、楽しそうにクラブの活動などについて話し合っていた。二次会は、部屋でのビンゴゲームで大いに盛り上がった。賞品は加藤さん手作りのアクセサリ一等である。終わった時間は記憶にありません。



翌日の観光はまず昇仙峡。仙娥滝の観光もそこそこに勧め上手な店員さんのワインのうんちくを聞きながらワインを試飲。結局は高くついた・・・最後の観光は、人は石垣 人は城と歌われる躑躅ヶ崎館跡(武田神社)である。観光よりも土産物を買うのに忙しい人も。バスに乗っている時間が長く結構疲れましたが、2日とも天候にも恵まれ、本当に楽しい旅行でした。幹事さんに感謝!!(TM)



群馬県甘楽町有機農業研究会

11月8日(木) 年1回のバス見学企画で群馬県甘楽町有機農業研究会へ行きました。北区の給食残渣を処理した生ごみ堆肥を介し交流する日本農業賞に輝いた先進地です。

北区からの処理済み堆肥や甘楽町の堆肥場。それを使って栽培されている圃場の見学と説明に会員からの質問が多数。気持ちよく説明していただきました。



昼食は道の駅かんら隣の古民家での織田信雄弁当。日当たりのよい縁側もある建物で桃太郎ご飯にヒレカツ・煮物と、とてもおいしかったです。



次は新井会長のパワーポイントを使っての講習。中でも野菜栽培については肥料の効かせどころや病害虫防除について有機ならではのコツを写真入りでわかりやすく教えていただき、質問にも答えていただきました。

次は実践している下仁田ネギ、野菜などの圃場の見学。連作してもかえって良い物が採れる畑もできるとのこと。



次の見学は「甘楽ふるさと農園」
ここは交流農園で利用者の半数が県外からと…。新井会長の指導を受けながら、農機具など必要なものが利用できる利点から、近くに家を借りて転居して来るほどの人気とのこと。グループで借りることも可能と言われ、気持ちが揺れましたが、通う足を考え、見送りました。江戸川区内に…行かずとも、もう少し近くにあれば…と切に願います。

最後に楽山園・道の駅での買い物を終え、帰路につきました。到着時間を大幅に過ぎての帰着でしたが、車中では楽しい親睦の時間が持て、実に有意義な一日となりました。

幹事の皆さん、ありがとうございました。(K.I)

荒川クリーンエイド&いも煮会

11月3日、荒川クリーンエイドに参加して、葛西橋の上流側でゴミ拾いをしました。当クラブからは11名、江戸川区土木部や他団体からの参加も含めると総勢29名で、種類や数を数えながらのゴミひろいです。

一番多いのはペットボトルでしたが、現金以外、生活の全てがあるのではないかと思うほど種類も量も多く、しかもゴミの上にゴミが堆積していて2時間と言う限られた時間内では拾いきれませんでした。針付きの注射器も3本見つか、ゴミ拾いも気をつけないと大変危険です。濡れて動かさないほど重くなっている布団をはがすと、そこはカニの棲みかとなっていて命のたくましさには驚かされました。東京の新名所、スカイツリーがすぐ近くに見える心なごむ風景ですが、足元に目を落とせば大量のごみ、クリーンエイドに参加した人から気付き、生活を見直すきっかけになればとの思いを強くしました。



ゴミ拾いの後はお楽しみの親睦芋煮会です。場所は、ゴミ拾いをした葛西橋から自転車で15分ほど上流に移動した五色池です。ここは佐藤代表や何人かのクラブメンバーが参加している市民団体の活動拠点で、芋煮会に必要な道具をお借りしました。いも煮会からの参加もあり総勢13名、火おこしから始めて2つのなべに持ち寄った具材を入れ、いも煮の本場、山形風に作り味付けも上々。良く晴れて風もなく、楽しい親睦のひとつときでした。(HH)



江戸川区で行われたとことん討論会

17回東京23区とことん討論会は、約250名の参加で無事終わることができました。地元開催ということで、実行委員長を務めました。クラブの皆さんには多大な協力をいただきありがとうございました。

当クラブは、主に第1分科会の運営を担い、大勢で参加しました。懇意にさせていただいているNPO法人大地といのちの会理事長の吉田俊道さんをお招きし全体会と第1分科会で講演をいただきました。

分科会では当クラブの活動を発表したほか、会場ではパネルを展示し、ごみ堆肥化の実演やゴーヤの試食などもしました。参加いただいた多くの皆さんに、生ごみ堆肥化は「これぞ東京23区ごみ減量のカギ」と感じていた

だけたものと思います。

吉田さんが講演で何度も強調されたように、自ら実践してこそ、成果が現れ、周りに広まります。まもなく討論会の報告書が出来て送られてくると思います。とことん討論会で確認しあったことを、私たちの周りから江戸区内、そして東京23区へと広げてゆきたいと思います。



佐藤正兵

ヘチマを植えよう

私は毎年庭にヘチマを植え、家の周りに竹やしゅうろ縄などを張ってそれに這わせています。ヘチマは5月の連休ころに、苗を買ってきて植えますが、小さい苗は虫に食われるので、鉢で50～60cmになるまで育ててから地に植えます。プランターに植える場合は、大きめのものに、生ごみ堆肥をたくさん入れて育てます。大きな葉を茂らせてどんどん伸びるので、ネットやロープを張ってやるとグリーンカーテンとして最適です。

ヘチマの若い実(種が柔らかく長さが20～30cmのもの)は緑色の部分の皮をむき、ナスと同様においしく食べられます。

皮が茶色をおびて重さが軽くなったら収穫し、水に浸けておくと皮が



きれいにとれ、乾燥して振って種を出し、タワシとして快適に使用できます。

ヘチマの収穫が終わった10月下旬から11月、蔓の根元から1メートルほどの部分をナイフで切って根元側をビンに差込み、雨がつかないようにポリ袋をかぶせておくと、ヘチマ水が採れます。ヘチマ水はろ過し、加熱消毒(80～90℃)した後、アルコール(エタノールまたは焼酎)を若干(数%)入れて冷蔵庫で保管します。そのままでも、またはグリセリンを好みの量(10%未満)を入れて化粧水として使うことができます。

また、ヘチマ水は咳止め、むくみ、利尿に効くとされ、塗るとあせも、ひび、あかぎれ、日焼け後の手当てにも効くと言われています。

佐藤正兵

私流・・・家庭菜園

家庭で出る生ごみだけの成分で堆肥を作り野菜に施肥しても肥料バランスの片寄りがあると思いますが、出来るだけ化学肥料を使いたくない自分のこだわりもあります。

毎年ゴーヤとキュウリで緑のカーテンを作っていますが、最初の頃はキュウリのうどんこ病に悩まされ、半月で終わった年もありました。



きゅうりの種をとりました

今年は毎日の観察で白く粉がふいた葉を見つけると菌の胞子がうつらない様に取り除きごみ箱に棄てて来ました。これが良かったのかぐんぐん大きくなり20日に1度の生ごみ堆肥と水やりをして来たので立派なカーテンに育ってくれ、キュウリの実も3株で130本の収穫がありゴーヤは6株で200本余り採れました。有機野菜の味は格別で美味しいです。やはり根が張っただけ大きく育つのも直植えのおかげでしょうか。

収穫の終わった蔓は刈り込み鋏で細かく切り、生ごみとぼかしもいっしょに入れ耕して堆肥作りをします。

冬の我が家の庭は日照時間が短い為、春までは、ベランダ菜園です。プランターに玉葱、ブロッコリー、大根、菜の花、レタス、ニンニクなど植えています。

レタスは寒さ対策で穴を開けたビニール袋をかけ、菜の花とブロッコリーは早春の食卓に添えられます。

玉ねぎは9月に種を箱蒔し、11月にプランターに90本の苗を定植しました。

残った苗は第六葛西小の菜園に植え、両方とも来年3月までの追肥をしながら6月の収穫が楽しみです。(M.N)



玉ねぎの苗がびっしり!

瑞江小学校で出前授業(12月3日)

瑞江小学校から出前授業の要請があり、環境委員会(5・6年生)の児童24名と一緒に給食の生ごみを使って堆肥作りをしてきました。これは子どもたちからの希望だったとの事、未来を担う世代にこそ伝えたい生ごみ堆肥作りです。小学生向けに作ったパワーポイントで生ごみが貴重な資源になる事を説明した後、校庭に出てブルーシートの上で堆肥作り。生ごみと種堆肥やぼかし・土をよく混ぜてから大型プランター5個に分けて入れました。春にはゴーヤを植えて、緑のカーテンに育てる予定です。



